

ひばりクリニック実習レポート

自治医科大学医学部 5年 卯路拓未

期間 2010年1月27日～1月31日

この度、自治医大の地域医療実習の一環としてひばりクリニック、うりずんで1週間実習させていただきました。外来診療、訪問診療、退院前カンファやうりずんの見学など充実した実習をすることができました。その中で感じたことを述べようと思います。

まず驚いたのは、白衣などの制服がなく、職員全員が私服だったことです。誰がどの職種なのかはじめ全くわからなかったです。私服で診療することで、患者と医療者の間の壁がなくなり、気軽に話しやすい関係が築けるのだと思いました。

訪問診療実習では、高齢者のお看取りから人工呼吸器をつけた子供まで、様々なご利用者の訪問診療に同行し、退院した患者さんが暮らしている様々な環境を見ることができました。また、問診、身体診察、バイタル測定など、自分にできることは実際にやらせていただきました。特に小児の訪問診療に同行する機会は今まであまりなかったので、とても勉強になり、良い経験が積めました。特徴的だったのは、訪問時間に占める雑談の割合が非常に多かったことです。最近

楽しかったことや、好きな食べ物、趣味の話など、医学的な問診以外にも色々な話をご利用者様本人だけでなく、そのご家族の方々ともされていました。家族に目を向けることも大事だということを学びました。また雑談をするだけでなく、その内容をカルテにも記載されていました。こういうことから信頼関係を築いていくのだと感じました。ご利用者様は先生が家に来るのを楽しみに待っておられました。どの家庭に訪問に行っても、医師も利用者様もその家族も全員が笑顔で雑談をするという、とても楽しい雰囲気の訪問診療でした。

うりずんでは、児童発達支援、日中一時支援に入りました。児童発達支援では利用者の方々と一緒に遊んだり、歌を歌ったり、お話をしたりしました。日中一時支援では、利用者の方々とコミュニケーションをとったり、ベッドへの移乗や痰の吸引、お食事の介助などのお手伝いをさせていただきました。節分が近く、自分は鬼に扮して球を当てられるという楽しい体験もさせていただきました。病院へ入院となるとモニターをつけられ、患者さんは寝るだけになってしまいますが、うりずんでは楽しい時間を過ごせると思います。医療的ケア児が増加している日本にはこのような施設がさらに必要になってくると感じました。

最後になりましたが、熱心に指導してくださった高橋先生をはじめとするスタッフの皆様、実習に協力してくださった施設利用者とそのご家族の方々に心から感謝いたします。とても貴重な経験をすることができました。今回の実習で

学んだことを今後自分で在宅医療をするようになったときに活かせるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。